

寛 大学にはそれぞれの学風があると
言われます。学風というと格好良すぎ
るので「出し汁」の様なものかも知れま
せん。学長になるに当たって、香川大の
学生に香川大ならではの「出汁」が沁み
てほしいと思いました。卒業生は就職先
で「規律正しく我慢強い」と高評価で
すが、ひねくれた私は「もうちょっとイン
パクトのあるプラスアルファが欲しい」と
思う。やたら元気がよくて、怖いものな
しで上司にバンバン提案する、まるで野
口さんのような人材を育てるための
キーワードが「デザイン思考」と「柳のよ



らえました。コロナ禍で文科省との会
議もオンラインになって、香川大の先生
方が全員参加でき前向きな姿勢を伝
えられたのもよかったです。学長としての6
年間は半分以上がコロナ禍と重なりま
すが、損をしたとは思っていません。

**香川大生らしい
インパクトを醸成したい**

寛 それに偏差値で計れない力です。ど
この大学にも熱心な学生は一定数いて、
それを刺激して増やせるかどうかが大
学の力でしょう。デザイン思考でいいアイ
デアを出すには、年齢も国籍も多様な
方がいい。創発科学研究科で社会人や
香川大職員を受け入れているのも多様
性のひとつです。3割が地元出身で年
齢的にも似通っている香川大に、たとえ
ば首都圏の学生、女子大生、単科の農
業大学生などが混ざるだけでも互いに
刺激になります。必ず効果があると思っ
て、積極的に交流を進めました。18歳人
口が減少していく中で地方の国立大学
が多様性を確保するには、ますます「外
から呼び込む」方向に進むでしょう。

うにしなやかに」です。どんな危機が来
るかわからない世の中で、人の役に立ち
ながらたくましくやっていくには、元気
よく提案する裏でちゃんとリスクマネ
ジメントができる、したたかな人間に
なって欲しい。最近では企業の人事担当
者から「香川大の学生はよく発言して
くれる」と聞くようになり、ちょっと出
汁が沁みてきたかなと感じています。

野口 「柳のようにしなやかに」は、リ
スクマネジメントとともにレジリエンス
にもつながりますね。アントレプレナー
の起業部ができるなど、今までなかった
動きも生まれています。



香川大学長
寛 善行
かげり よし ゆき

【インタビュー】
企画総務部次長
野口 里美
の くら さと み

寛学長単独インタビュー

KAKEHI'S TALK Cafe

大学改組やコロナ禍… 激動の6年間

野口 2017年10月に学長に就任さ
れて、私は教育学部で教職大学院の立
ち上げにかかわった後、大学改組で学長
とガッツリ一緒させていただきました。

寛 理事時代から8年、ありがたいこ
とに大学改組の責任者を務めさせて
もらえました。創造工学部、医学部、
経済学部、農学研究科…大学全体で
新学部や研究科が一斉スタートしたの
が2018年4月。他大学から2年
遅れの改組で、結構むちゃくちゃ走り
ましたね。経験豊富な野口さんがかか
わってくれるタイミングもよかったです。ご
自分が納得しないと前に進まないけ
ど、いったん切り替わると早い人だか
ら、大変助かりました。

野口 教職大学院、地域マネジメント
研究科、ロースクール、創発科学研究
科、医学部臨床心理学科の修士課程
と、多くの改組にかかわる機会をいた
だきました。創発科学研究科は2022
年スタートでした。

寛 あの時も文科省とのやりとりが大
変でしたが、高等教育をよりよくした
と思う気持ちはきつと同じ。ちょうど
世の中が学問の領域を縦に閉ざしてい
てはだめだと認識し始めていた頃でも
あり、損得勘定抜きに心から「やりた
い！」と思う我々の意欲を理解しても

**大きな研究を育む
分野横断の風土**

寛 香川大には有名な希少糖研究以
外にも、微細構造デバイス、中赤外分
光分析をはじめ非常に先端的な研究
が多数あります。ただ、全体的に横のつ
ながりが希薄でした。私は大学院の4
年間を基礎研究室で過ごし、医学部以
外の人や企業の研究員と接する機会
をたくさん得て、広い視野を培いまし
た。予算が潤沢でトップレベルの科学誌
にバンバン論文を出す大きな大学と、
予算も研究員も少ない地方大学が同
レベルで戦っていくには、分野を横断す
る横のつながりを学外にまで広げて大
型化を図るべきです。大学院時代の経
験が創発科学研究科やイノベーション

デザイン研究所（ID研）の発想の源で
あり、香川大の分野横断の風土を創り
出してきたようにも思います。

野口 22年には産学共創リサーチ・
ファームも採択されました。

寛 実際に「横」をつなげてみて、いく
つか新しい芽も出てきています。それを
発展させるのが今後の重要課題とな
るでしょう。私自身にとっては、ID研
立ち上げに当たって、生まれて初めて
本気の寄付金集めに奔走しましたが、
そこで県内企業の方々と知り合えたこ
とが今も生きています。単なる資金集
めではなく、大学と企業の方々との距
離が近くなる良いきっかけになりました。





人の心を打つのは
技術ではなくアート

寛 危機にあふれた未来をしたたかに生き抜き、人々に幸福感をもたらす人材を育成するに当たって、どうしても切り離せないのが人工知能の話です。2050年に今の仕事の半分はAIに取って代わられる予測がありますが、最近はずっと厳しく、今まで安泰だと思われたクリエイター業

です。AIが台頭する時代。私の専門である医学の領域も、病氣自体がなくなることはないでしょうが、医療にAIやロボットが入ってくるのは間違いなく、今と同じことをしては生き残れない人が出てきます。しかし、あらゆる職種でそうなるっていくことを、私自身はそれほど悲観していません。地球上で生きる主体が人間であり生物であることは、病気がなくならないのと一緒なんです。

野口 AIがさらに進歩したら、大学もカリキュラム体系を変えていくべきですか？

寛 医学の世界は特に変化が激しいので、そうなる可能性はあります。私が大学を卒業した1980年代初頭は、医学の情報が2倍に増える時間が7年と言われましたが、2020年代は73日だそうです。一つの情報の寿命はせいぜい5〜7年、専門知識も相当リニューアルされていくので、大学も年中同じことを教えているわけにはいかなくなります。そこをカバーするのがAIなのではないかと感じています。

野口 映画や小説などエンターテインメントの世界では、症状を入力したらAI診断してくれる医療描写もあります。ああいう技術が進歩した場合、医師には別の能力が求められるのでは？

寛 医師が電子カルテの入力画面ばかりを見て目の前の患者を見ない、という指摘は以前からあるんです。カルテは口で喋れば文字になる時代だし、本当に見るべきは目の前の患者さんですから、「頼れる医師」像は昔に回帰して

いくと思いますよ。翻訳なども、自動翻訳機が進化していますが、人の心を伝えるのは機械ではありません。

野口 なくしていいものもなくなっていくものがある中で、大学はどう考えていけばよいでしょうか。



寛 情報量が爆発的に増え、人間の頭で全部処理するのは無理ですから、機械もAIも躊躇なく徹底的に利用して作業時間を短縮するべきです。しかし、コミュニケーションを成立させるには何らかのプラスアルファ、つまり人間の工夫が必要です。AIにできることできないことを見極めて、AIが出してきたものを翻訳し、最終的に「ハートにタッチ」させるのは人間の力なんです。

爆発的なイノベーションは

「燃える心」から生まれる



野口 それは「愛」ですか？

寛 大きい意味では愛です。大学も臨機応変に対応できる組織でなくては、激しい変化についていけなくなります。そういう点で、「変化しやすく、こだわらない」創発科学研究科の体系はフィットしているかもしれません。

香川大は新しいテクノロジーをどんどん開発しようとしているけど、先日、「文化的処方」について東京藝術大学の日比野克彦学長と話していて、「世の中に愛されるイノベーションには必ずアートが

介在している」という点で大いに共感していました。アップルの商品が象徴的です。背景にはものすごいイノベーションがあるんだけど、ハートを打つのは技術ではなくフォルムや手触りで、日本人がアメリカ人以上にアップルの製品を使うのも、どこかで心を掴んでいるんだと思う。爆発的なイノベーションを仕掛けたいなら、ユーザーの心に火をつけなくてはいいけない。イノベーションは成果ではなくて発明の手法や過程のことであり、テクノロジーとアートのかけ合わせそのものかもしれません。イノベーションに日本語訳を当てるなら、「文化的×科学的処方」といったところでしょうか。

野口 最後に、香川大を目指す学生たちにメッセージを。

寛 学生たちには香川大でいい体験をしてもらいたいし、我々には「入学してよかった」と思える学びを提供すべき大きな責任があります。受験生の皆さんには大いに期待していますよ。ぜひ飛び込んでください。ここで何かを掴むのはあなたです！





大学の主な出来事

【10月】香川大学学長に就任

【4月】創造工学部を設置

医学部臨床心理学科を設置

経済学部改組

農学研究科改組

産官学連携統括本部を設置

学長戦略室・IP推進部を設置

【10月】イノベーションデザイン研究所を設置

【4月】総合教育棟(通称DR1棟)を設置

【8月】瀬戸内国際芸術祭2019へ作品出展

プロジェクト名:香川大学×小豆島夢プロジェクトチーム

「演劇でみる小豆島のカタチ」

作品名:「トラと呼ばれたサル」【写真1】



【9月】瀬戸内国際芸術祭2019へ作品出展

プロジェクト名:香川大学×小豆島夢プロジェクトチーム

「演劇でみる小豆島のカタチ」

作品名:「蛙の池の今昔物語」

【4月】教育学研究科の教職大学院二元化

大学院医学系研究科臨床心理学専攻(修士課程)を設置

【3月】中四国・九州発!香川大学公的

統計ミクロデータオンサイト施設(通称:KadaStat)を開設



【3月】大学・地域共創プラットフォーム香川を設立【写真2】

【4月】大学院創発科学研究科(修士課程)を設置

創発科学研究科(産学共創リサーチ・ファーム)を設置

大学院医学系研究科看護学専攻 博士後期課程)を設置

ダイバーシティ推進室を設置

デジタルONEアンバサダーを任命

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム」が、

文部科学省「数理・データサイエンスAI教育プログラム

認定制度(応用基礎レベル)に認定

イノベーションデザイン研究所新棟を設置【写真3】



【5月】瀬戸内国際芸術祭2022へ作品出展

プロジェクト名:瀬戸内の伝統生活文化・芸術発信プロジェクト

作品名:「瀬戸内仕事歌&四国民話オペラ(二人奥方)」【写真4】



【4月】情報化推進統合拠点を設置

「地域中核・特色ある研究大学の連携による

産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択

四国初、大学入試で「国際バカロレア選抜」を導入

【6月】国際希少糖研究教育機構が

第12回地域産業支援プログラム表彰事業

(イノベーションアワード2023)文部科学大臣賞を受賞

協定締結

【2月】高松市日本電気(株)・STNet・香川大学・香川高等専門学校による

スマートシティ実証環境の構築活用に向けた基本合意書を締結

【7月】(株)STNetと連携協力に関する協定を締結

【7月】リコージャパン(株)と包括連携協定を締結

【7月】情報通信交流館(eとびあかがわ)における

交流拠点事業の実施に関する覚書を締結

【7月】芝浦工業大学と連携協力に関する

協定を締結【写真5】

【10月】土庄町及び小豆島町と「包括的連携協力に関する協定」

並びに「サテライトオフィスの運営に関する覚書」を締結

【3月】あいおいニッセイ同和損害保険(株)と連携協力に

関する協定を締結

【6月】JAグループ香川と

包括連携に関する協定を締結

【10月】東京農業大学と連携協力に関する

協定を締結【写真6】

【11月】国土交通省四国運輸局と包括連携に

関する協定を締結

【12月】津田塾大学・芝浦工業大学と連携協力に

関する協定を合同締結【写真7】

【3月】トモホルディングス(株)・徳島大正銀行(株)・香川銀行・徳島大学・

阿南工業高等専門学校・香川高等専門学校と持続可能な

地域経済の発展に係る連携協力に関する協定を締結

【7月】香川県警察と包括的連携協力に関する協定を締結

【9月】松谷化学工業(株)と包括連携協約を締結

【1月】(株)NTTドコモと連携協定を締結

【2月】国立研究開発法人防災科学技術研究所・国立研究開発法人

海洋研究開発機構・坂出市と観測データの南海トラフ地震・津波災害対策

への活用に関する連携協力協定を締結

【3月】四国5国立大学法人連携により

【4月】一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構)を

設立【写真8】

【4月】JICA四国と連携協力の推進に

関する覚書(更新)を締結

【12月】香川県及びノバルティスファーマ(株)と

循環器病対策に関する産官学連携協定を締結

【1月】三井住友信託銀行(株)と遺贈寄付に関する協定を締結

【3月】公益財団法人高松市スポーツ協会と連携協定を締結

【4月】高松地方気象台と連携協定を締結

【4月】協和化学工業(株)(現セトラスホールディング(株)及びマグミット製薬(株)と

包括的連携に関する協定を締結

【5月】公益財団法人松平公益会と

「中野武堂」デジタルアーカイブ事業に関する覚書」を締結

【6月】日本マイクロソフト(株)と連携に関する協定を締結

【10月】大野市と連携協力に関する協定を締結



2023年

2022年

2021年

2020年

2019年

2018年

2017年